

を正いので有るか唯其開教者分其自國の地理
 的歴史的事情を参酌する所多きが為め同
 く其基礎を原文聖書に採ると雖も其枝葉未流
 に至るを千差万別得て收拾を可らざる有様不
 有るのが今の世界の哲学の宗教の實際不有
 るを以て一なる之と達觀通視して其精神骨髓
 の上より一了大別を以て四大凡四種の系統を有
 る第一は印度系統第二は支那系統第三は
 希臘系統第四は佛太系統を有る而して此
 四種系統を前に言へる如く其開教者分一向に
 其自國の地理的歴史的事情を参酌する所多きが
 為めの起りしる外なりぬのて有るけしと
 今一層此四種系統の由を起る所の本源を溯
 りて之を研究せしむ

東洋史

